

全国英語教育学会第42回埼玉大会

2016年8月21日(日)9:30-9:55

# 中高の英語指導に関する実態調査 —指導に関する教員の意識に焦点を当てて—

高木亜希子(青山学院大学)

加藤由美子(ベネッセ教育総合研究所)

福本優美子(ベネッセ教育総合研究所)

# 本発表の概要

1. 調査の背景
2. 調査の目的
3. 調査の概要
4. 調査結果
5. 考察
6. 今後の展望

# 調査の背景

大規模調査

2008年「中学校英語に関する基本調査(教員調査)」

2009年「中学校英語に関する基本調査(生徒調査)」

ヒアリング調査

2013年「中高生に対する聞き取り調査」

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2013

大規模調査

2014年「中高生の英語学習に関する実態調査」

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2014

ヒアリング調査

2014年「英語教員に対する聞き取り調査」

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2014

大規模調査

2015年「中高の英語指導に関する実態調査 2015」

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2015

# 調査の目的

『中高の英語指導に関する実態調査2015』（ベネッセ英語教育研究所、2016）

- 中学と高校における英語教育の実態と英語教員の意識について明らかにすること。
- 本発表で焦点を当てる項目：

## 英語教員の「指導に関する意識」

希望する研修、現在行っている自己研鑽、授業で大切にしていること、指導に影響を与えているもの、指導上の悩み

# 調査の概要(1)

- 調査方法: 郵送法による質問紙調査
- 調査時期: 2015年8~9月
- 調査対象: 全国の中学校・高校の校長(1,152名)および英語教員(3,935名)  
中学校教員1,801名  
(配布数7,917通、回収率22.7%)  
高校教員2,134名  
(配布数6,354通、回収率33.6%)

# 調査の概要(2)

## 調査の枠組み

- 本調査の設計は、これまで実施した学習面と指導面の両面を捉える量的研究と質的研究を踏まえ行っている。

学習  
生徒対象

2013年

中高生に対する  
聞き取り調査



2014年

中高生の英語学習に  
関する実態調査2014

指導  
教員対象

2014年

英語教員に対する  
聞き取り調査



2015年

【本調査】

中高の英語指導に  
関する実態調査2015

- 調査項目：指導の実態、指導に関する教員の意識、英語教育改革について
- 回答：選択式

# 調査企画・分析メンバー

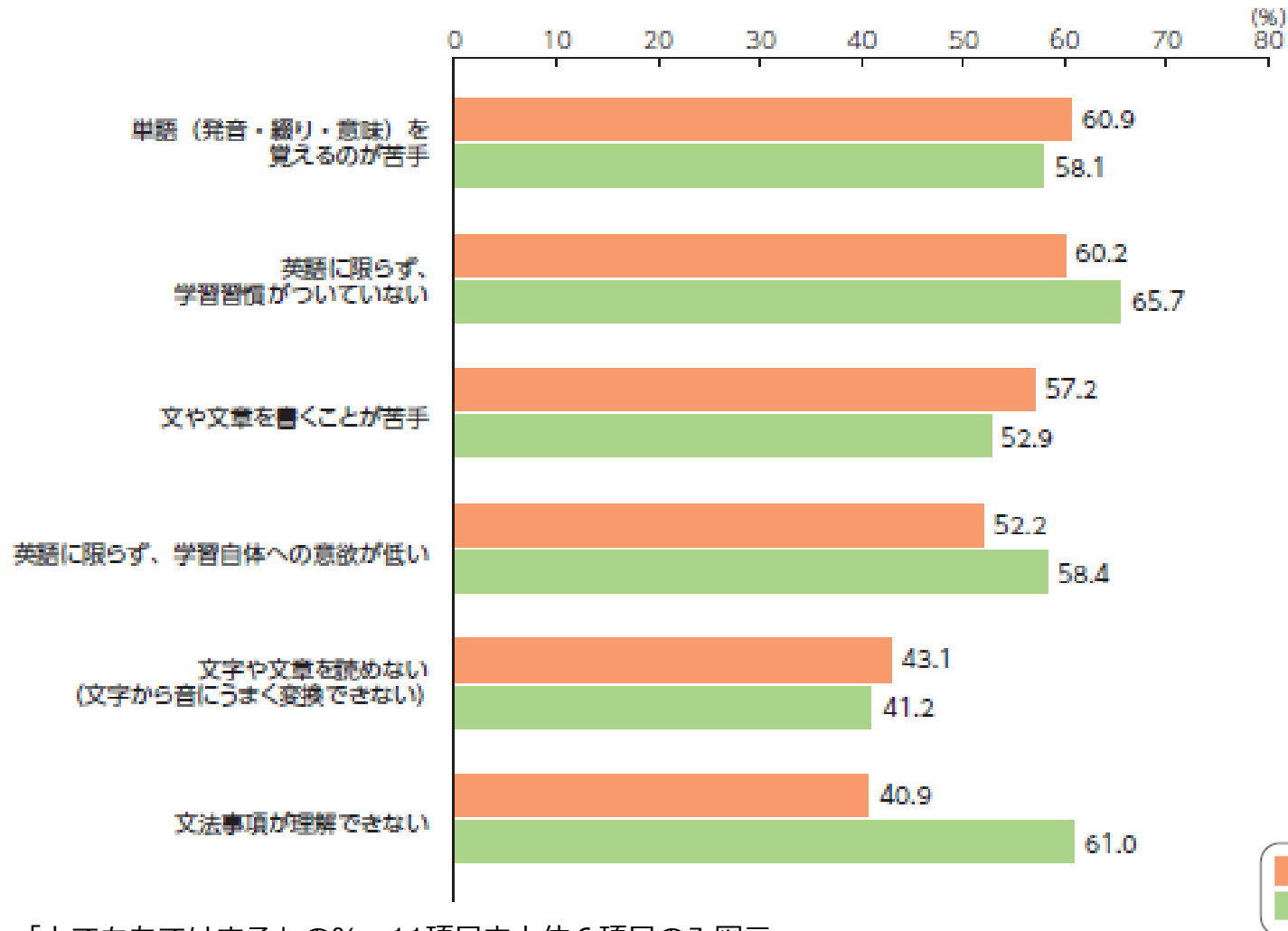
- 根岸 雅史（東京外国語大学教授）
- 酒井 英樹（信州大学教授）
- 高木 亜希子（青山学院大学准教授）
- 工藤 洋路（玉川大学准教授）
- 重松 靖（国分寺市立第二中学校校長）
- 木村 治生（ベネッセ教育総合研究所副所長、東京大学客員准教授）
- 加藤 由美子（ベネッセ教育総合研究所主任研究員）
- 福本 優美子（ベネッセ教育総合研究所研究員）

# 調查結果



# 1. 生徒のつまづきの原因

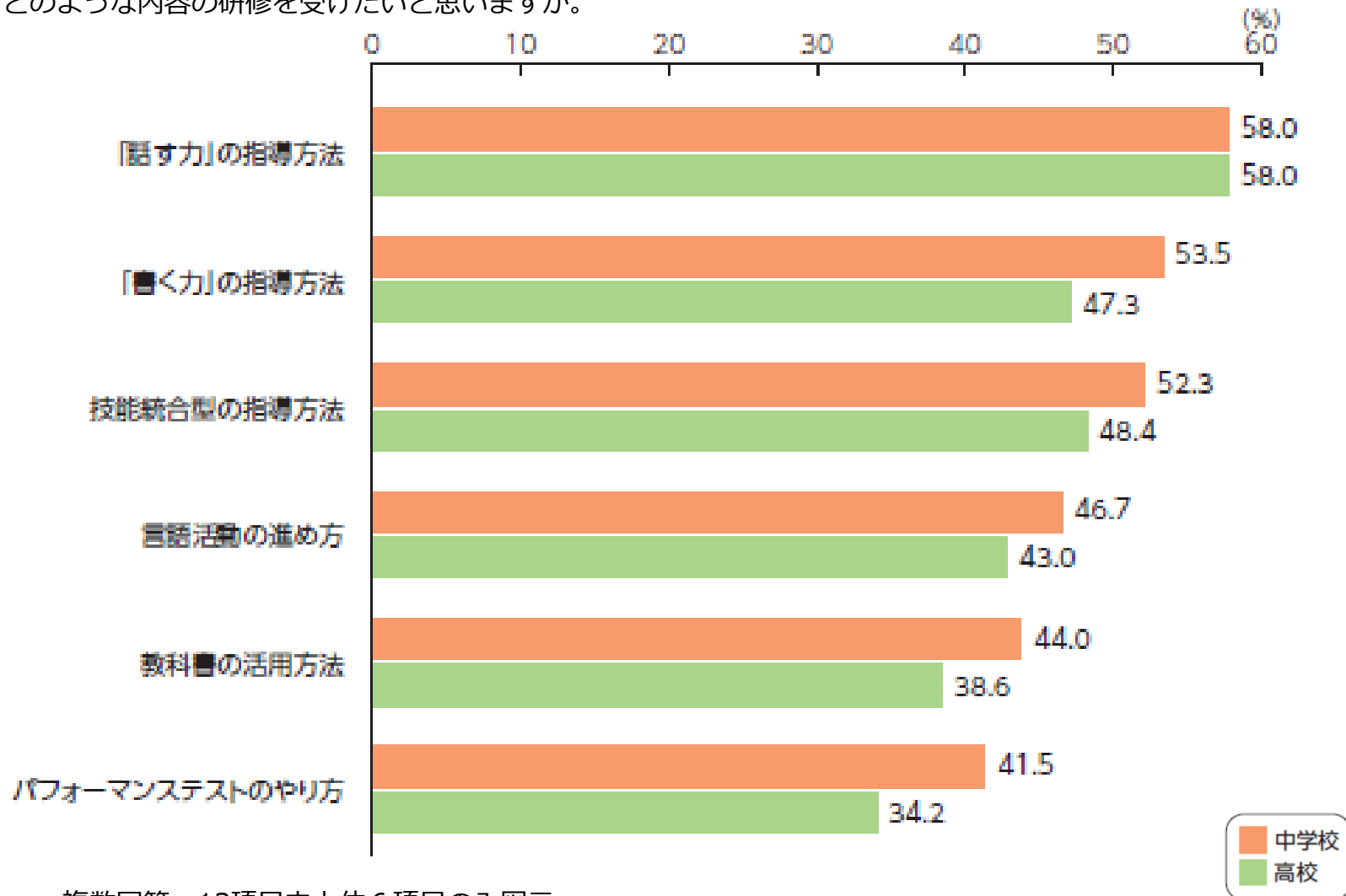
Q：英語に対して苦手意識やつまづきを感じている生徒は、どのようなことが原因だと思いますか。



\* 「とてもあてはまる」の%。11項目中上位6項目のみ図示。

## 2. 受けたたい研修

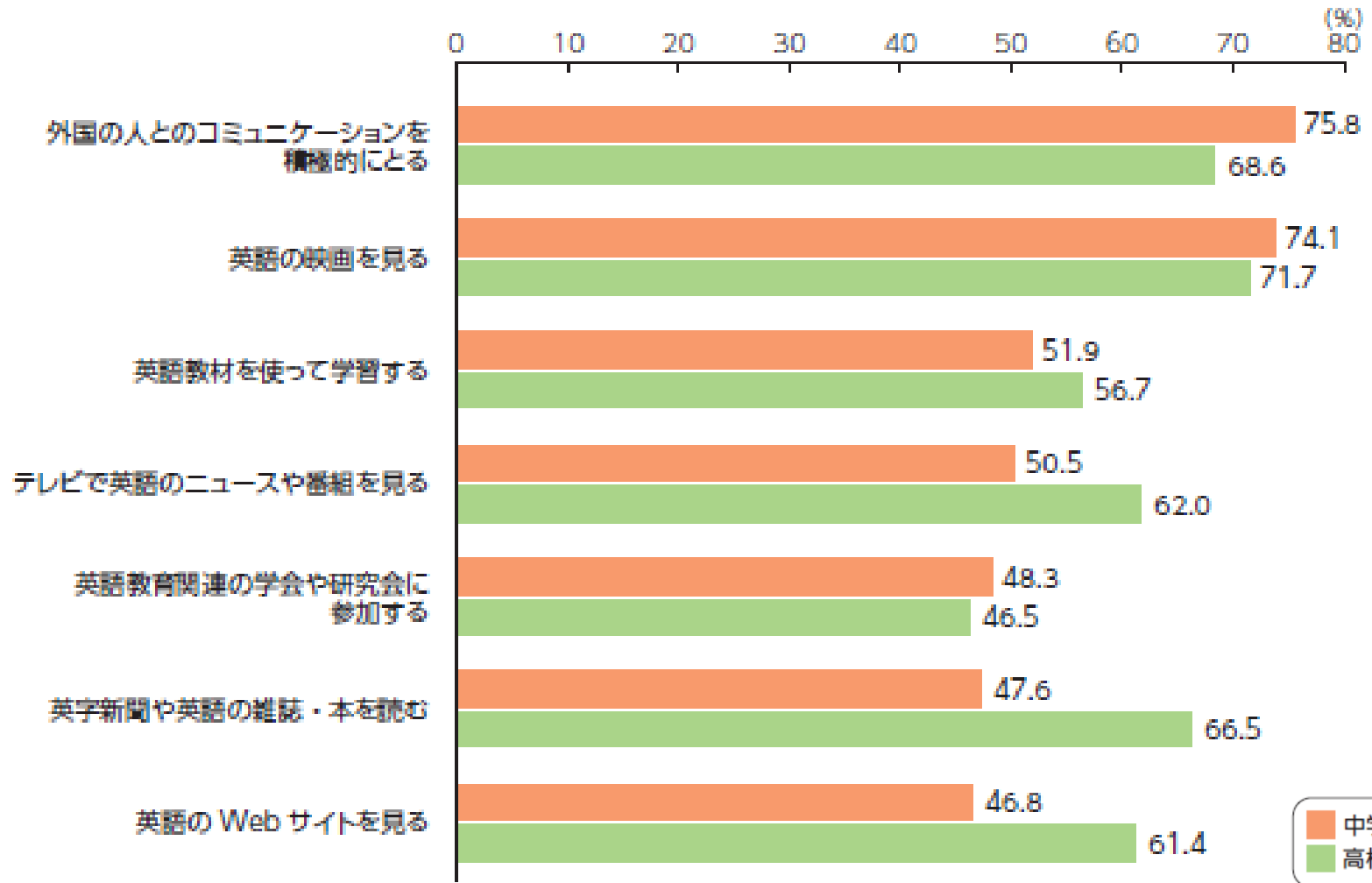
Q：どのような内容の研修を受けたいと思いますか。



\* 複数回答。13項目中上位6項目のみ図示。

# 3. 英語力向上・維持のための自己研鑽

Q : 英語力の向上または維持のために、自己研鑽として行っていることがありますか。



\* 「とてもそう」 + 「まあそう」の%。14項目中上位7項目のみ図示。

# 4. 授業で大切にしていること

Q : 生徒に対して、あなたが授業で大切にしていることをあらかず言葉として近いものを3つまで選んでください。

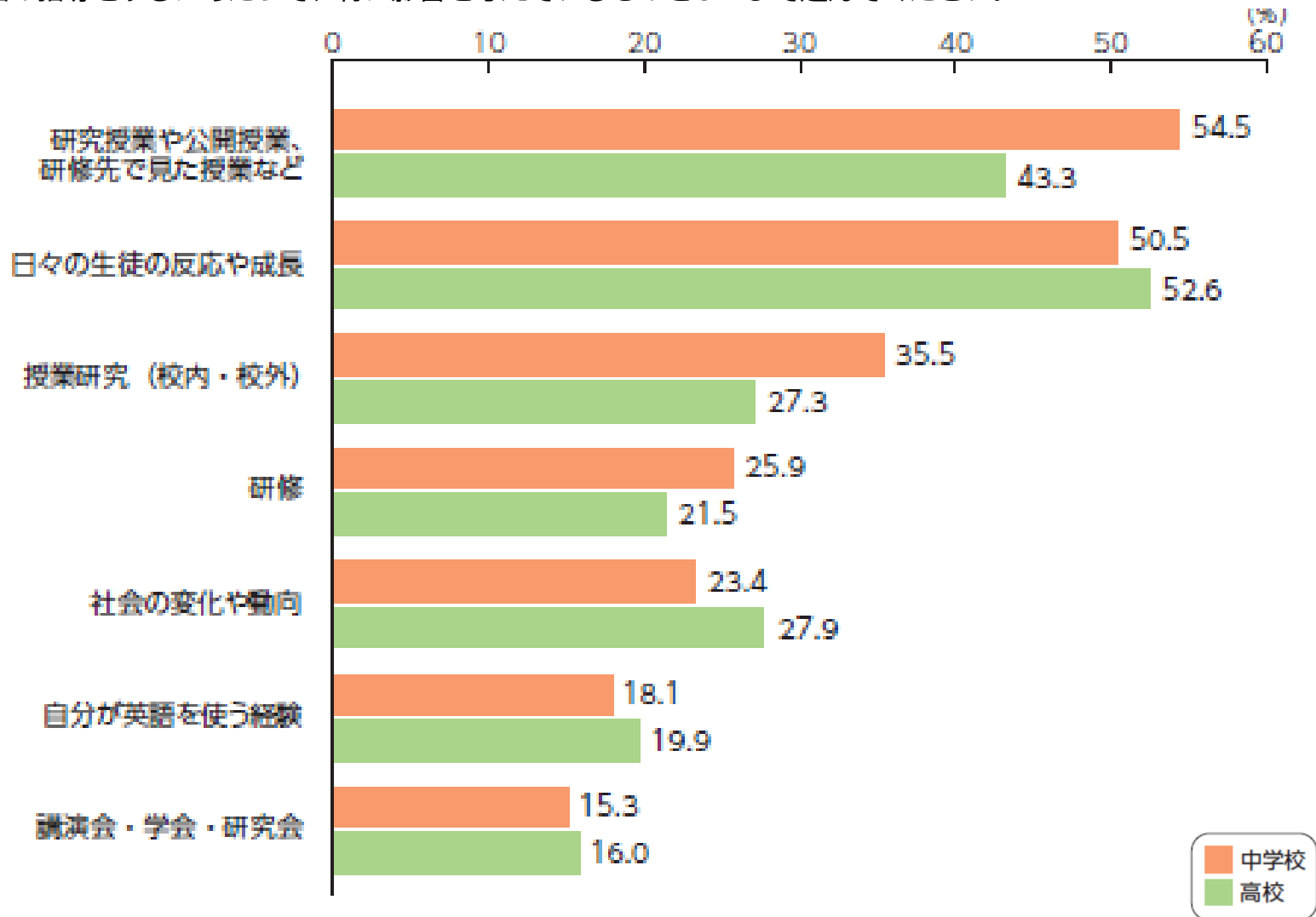
(%)

	中学校	高校
①	楽しさ (51.9)	理解 (41.9)
②	定着 (34.5)	楽しさ (38.1)
③	理解 (31.5)	好奇心 (32.5)
④	自信 (28.6)	定着 (30.9)
⑤	好奇心 (27.1)	自信 (25.1)
⑥	協働 (18.9)	協働 (16.0)
⑦	挑戦 (16.5)	発見 (15.4)
⑧	訓練 (13.5)	挑戦 (14.1)
⑨	発見 (11.8)	訓練 (13.8)
⑩	仲間 (9.1)	納得 (13.3)

\* 20項目中3つまで選択。上位10項目のみ図示。

# 5. 指導に影響を与えているもの

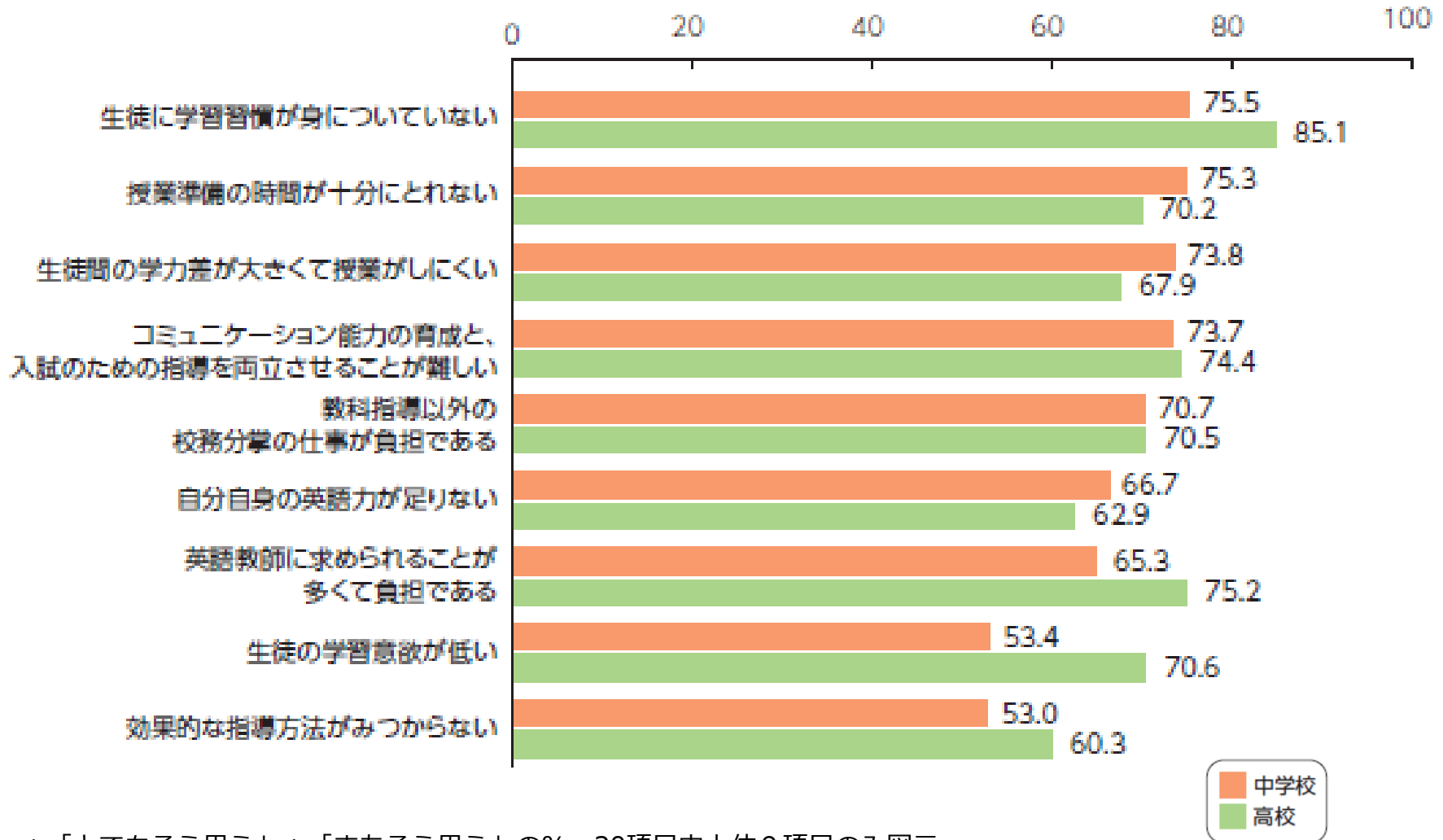
Q：英語の指導をするにあたって、特に影響を与えているものを3つまで選んでください。



\* 15項目中3つまで選択。上位7項目のみ図示。

# 6. 教員の悩み

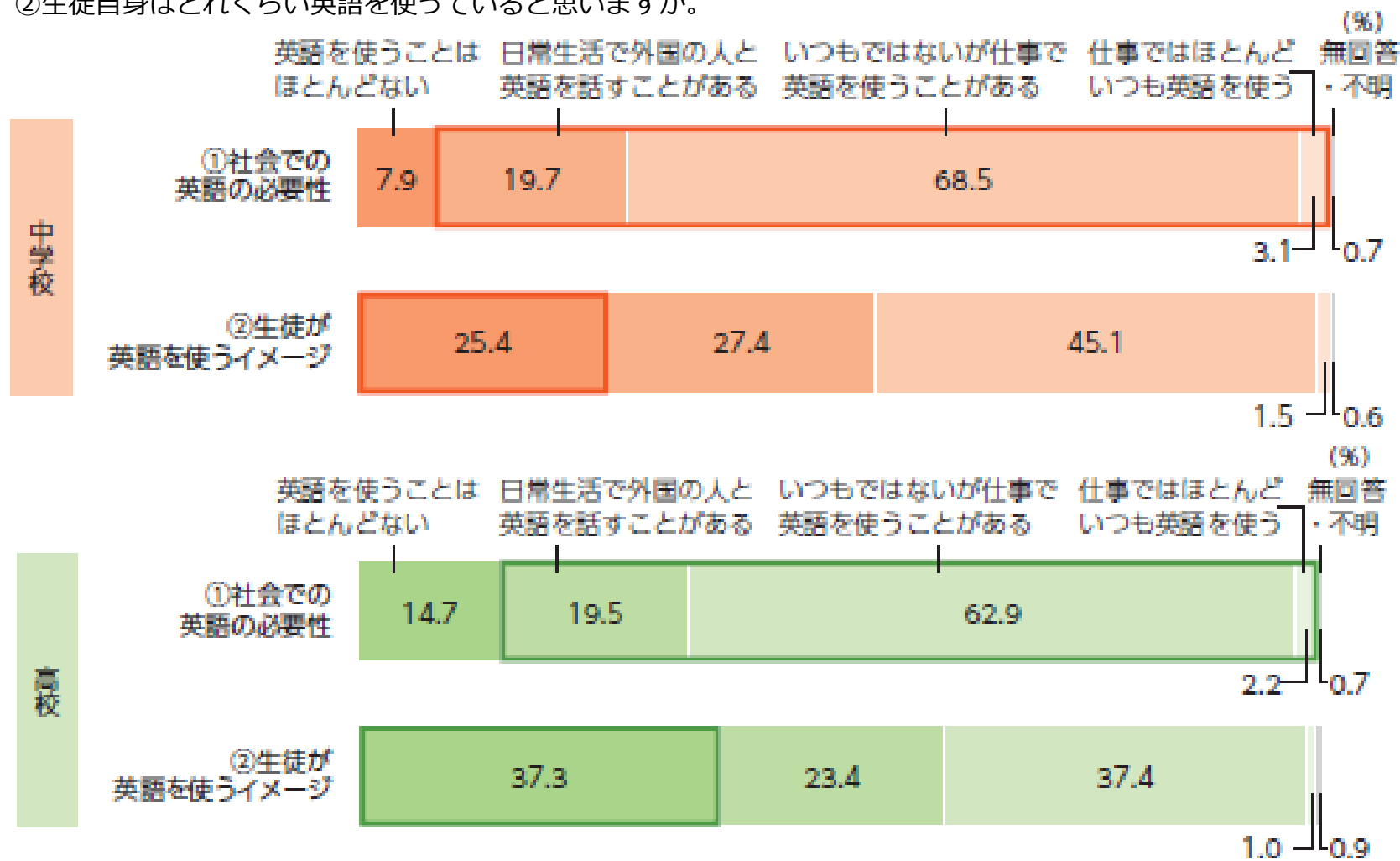
Q : 次のような悩みをどれくらい感じていますか。



\* 「とてもそう思う」 + 「まあそう思う」の%。20項目中上位9項目のみ図示。

# 7. 社会の英語の必要性と生徒が英語を使うイメージ

Q : 教えている生徒が大人になったとき、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。  
 ②生徒自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。



# 考察(1)

- 生徒のつまずきの原因と教員の悩み  
「生徒に学習習慣が身についていない」  
⇒他教科にも共通する課題の指導への影響
- 多くの回答結果は英語科に特有の事柄  
⇒コミュニケーション重視の学習指導要領及び政策を反映



## 考察(2)

- 社会での英語の必要性の認識と自己研鑽として英語の使用



認識と指導のギャップ

- 自身の生徒が将来英語を使うイメージを持ってないこと
- コミュニケーション重視の指導への悩み

## 考察(3)

- 「話す力」、「書く力」、「技能統合型」の指導について研修の必要性
- 指導の負担感(生徒の学力差、多忙さ)
- コミュニケーション能力の育成と入試のための指導の両立への悩み

## 考察(4)

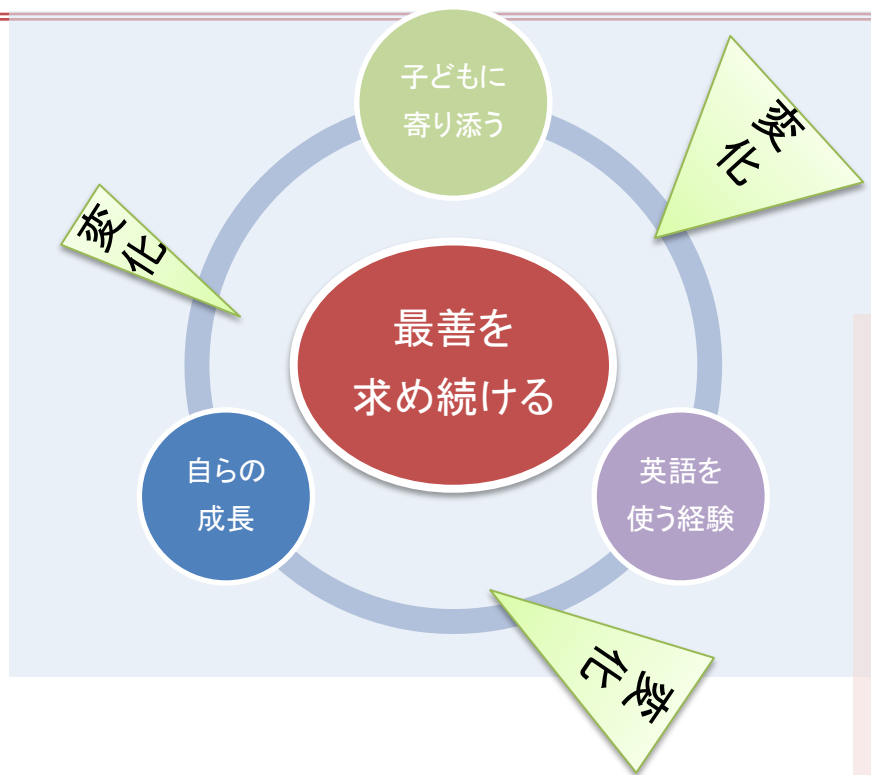
- 指導に影響を与えているものとして挙げられた下位項目

⇒教員養成のあり方について再考すべき可能性

# 考察(5): 質的調査との比較

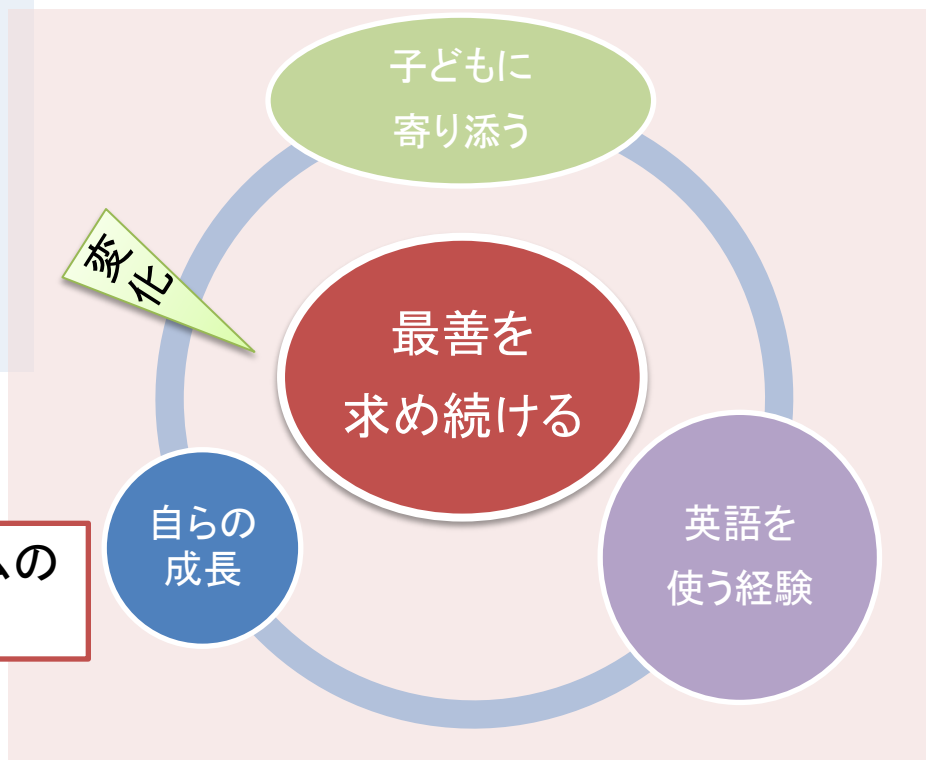
- インタビューによる質的調査(高木、酒井、加藤、福本、2014)
- 調査時期: 2014年10月~11月
- 対象者: 教員6名(中学校教員3名、高校教員3名)
- 調査目的: 英語で授業ができる中高の英語教員が大切にしていることは何か探ること

## 共通して見えてきたものをイメージ化した図



変化要因が途中で影響しながら3つのタームが関連しあったり循環しながら最善を求め続けている。

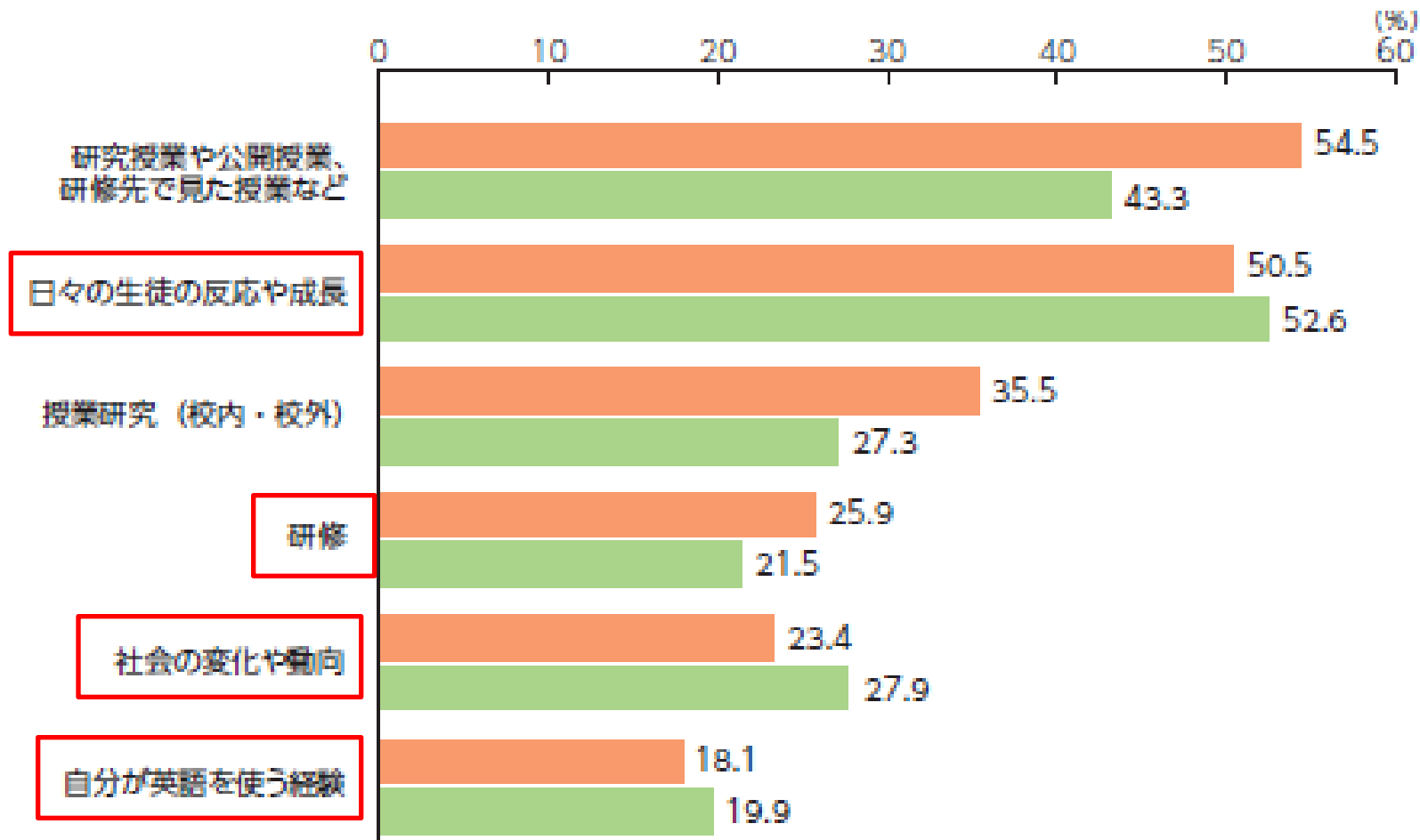
先生によって、それぞれのタームの意味することや重さは異なる。



「指導に影響を与えているもの」の上位に挙げられた4項目とつながる

# 指導に影響を与えているもの

Q：英語の指導をするにあたって、特に影響を与えているものを3つまで選んでください。



\* 15項目中3つまで選択。上位6項目のみ図示。

# 今後の展望

- 小中の連携を踏まえた中学1年生の学習者を対象にした分析(2016年3月実施)の分析  
→より詳細な課題と把握と外国語活動と中1英語の接続への示唆
- 目標—指導—評価がうまく循環するような仕組みづくりや、現職教員のための研修等の在り方の探究(インタビュー等の質的研究の可能性)→量的・質的調査の循環